

祖父のお米は最高だ。

せらひがし小学校 6年 田河 龍

今年もおいしいお米を食わしちやるけるの、
楽しみにしとけよ。

毎年の祖父の言葉。五月の田植えの時に、祖
父はいつもこう言っている。僕は毎年何気な
くこの言葉を聞いていた。今年も同じだ。た
僕の祖父は曾祖父から受けついでた田を大事
に管理し稲を育てている。仕事をしながら稲
の世話をするということはとて大変なこと

だと思う。近くに住んではいるけどなかなか
手伝うことができないので田植えと稲刈りの
時には、家族全員で手伝いに行っている。祖
父は僕達に指示をしながら機械を使っている。
そして祖父は、
はよお大きくなっでいしに機かいに乗る
とこ見せてくれえよ。
と言ってくれる。

僕は祖父の作るお米が大好きだ。甘くてし
とりしていてもおいしい。母が出して

くあるおかあが、でも、まが最初は白こは
んを一番に食べた。一口食べた、二口目、
三口目、と次々にはし加すすお。毎日味わ、
て食べている。祖父が手間をかけて育ててく
れたお米だと思つと、よりおいしく食であ
る。

その祖父のお米の味を確にんできる出来事
があつた。六月に僕達六年生は修学旅行に行
つた。旅行先で色々な食事をした。その食事
もおいしくて、楽しい食事かできた。た、

一つちがつた事があつた。それは、白こ飯の
味かつた。いつも自分の家で当たり前前に食す
ていたお米の味からかつた。その味のちがい
にとてもおもしろい。今まで何食なく食べた
きて、あま川他の家や、店で白こ飯を食べ
たことかなか、たから、このお米の味のちが
いに気づかなか。たんじやないか。
そして、修学旅行から帰ると、まが母に
そのことを話した。えして祖父のところへお
土産を渡しに行つた時に、

お米の味がちかったんよ。や、ぱりじじ
のお米が一番おいしいわ。
と伝えた。すると祖父は優しい笑顔で、
ほうじやろう、おいしいわやう。よか、
たのう。
と言った。その笑顔を見て自分もうれしくな
った。いいじ、いつもおいしいお米を作っ
てくれてありがたう。これからもよろしくね。
また手伝いに行くね。